

筆者が子供の頃は停電がよくありました。多くの場合、停電に対する対処は普段あまり家の中では動かないお父さんの仕事です。まず、家族の誰かに「よそのうちの電気がついてるかどうか見て来い」と命令し、電力供給の問題か、我が家のみの現象かを確認します。我が家だけの問題なら、ヒューズの確認です。今はブレーカーでしょうが、当時は火傷の恐怖と戦いながらお父さんが陶器製のヒューズボックスを開き、切れていれば交換するのです。たいがい台所などの壁の高いところにあるので、椅子の上で背伸びをしているお父さんを誰かが支えたものです。ヒューズの買い置きがない場合は荷札についている細い針金で応急処置をしなければなりません。懐かしい光景です。けいれんの説明をするときに「異常な電流でヒューズが飛ぶようなもの」と例えるのは、今はもう完全に不適切ですね。

今月号の特集は「一般小児科医のための小児てんかん診療ガイド」です。診断技術の進歩と相まって分類がいろいろと変わっていて、なかなかついていけないと感じている諸兄もいらっしゃるのではないかと思います。治療法についても、新薬が次々と開発されています。また、患者や家族に対する支援のあり方についていろいろなリソースやシステムが検討されています。本特集では小児てんかん診療のハンドブック的な構成を企画いたしました。是非ご一読いただき、てんかん診療に関する知見をアップ

デートしていただくと同時に、手元に置いていただいてご参考にしていただければ幸いです。

「綜説」は授乳中の薬物治療の考え方について解説いただいています。治療薬の進歩や新たなエビデンスに伴って、授乳に与える影響についても考え方をアップデートする必要があると思います。「診療」では、アトピー性皮膚炎のプロアクティブ療法について述べられています。日常診療において大変有意義なものだと思います。「社会小児科学」はアメリカ合衆国における小児多系統炎症症候群（MIS-C/PIMS）についてのご報告です。新型コロナウイルス感染症において、小児科学領域では最も関心を集めた話題の一つだと思います。「症例」は Pantone-Valentine leucocidin (PBL) 陽性の community-associated MRSA による蜂窩織炎の症例とおたふくかぜワクチンによる髄膜炎様所見を呈した症例についての2篇です。気になる細菌感染とワクチンについての報告です。是非ご一読ください。

お子さまのけいれんを目のあたりにされた親御さんは非常に慌ててパニックに陥るものです。また、てんかんという病名を告知されたときにも、非常にショックを受けられます。そんなとき私たち小児科医は頼りにされる存在でなくてはなりません。本特集がその一助となればうれしく思います。

(伊藤 保彦)

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC 順）

小児科

第63巻 第9号 9月号

2022年9月1日発行（毎月1回1日発行）

定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 47,630 円（本体 43,300 円＋税 10%）

〔年間 13 冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03(3811)7165 [雑誌部直通]

Tel 03(3811)7184 [営業部直通]

Fax 03(3813)0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。